

WAGING **PEACE**

SCHOOL OF INTERNATIONAL SERVICE,
AMERICAN UNIVERSITY



American University – Ritsumeikan University
Joint Degree Program

PEACE AND DEMOCRACY

RITSUMEIKAN UNIVERSITY

R RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

立命館大学 国際関係学部
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL. 075-465-1211
sakurasc@st.ritsumei.ac.jp



www.ritsumei.ac.jp/ir/jdp



School of International Service
American University
4400 Massachusetts Avenue, NW, Washington,
DC 20016, USA
sisabroad@american.edu
www.american.edu/sis/undergrad/sakura/

American University - Ritsumeikan University Joint Degree Program

アメリカン大学・立命館大学 ジョイント・ディグリー・プログラム

2027



R RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

BE A PEACE BRIDGE BETWEEN THE US AND JAPAN



American University-Ritsumeikan University Joint Degree Program

ジョイント・ディグリー・プログラム(JDP)は、異なる2つの大学が1つのカリキュラムを編成し、共同で学位を授与するという、これまでにない新しい国際連携プログラムです。アメリカン大学と立命館大学は、これまで30年にわたってパートナーシップを築いてきました。その到達点となるJDPは「グローバルな視点を持ち、国際関係を理論、歴史、文化、民族の多面的な視点から批判的に学び、特に東アジアと米国に関する諸課題に対する深い理解を習得した人材を養成する」という目標を実現するためにスタートした、両大学でしか実現できない非常にチャレンジングなプログラムです。国際機関、各国政府機関、グローバル企業、メディア、国際NGO等の分野において指導的役割を担う人材、日本とアメリカの懸け橋となりうる人材を輩出することを目指しています。

取得学位

学位名称: 学士(グローバル国際関係学) ※両大学が共同で1つの学位を授与します。

ディプロマ・ポリシー(教育目標)

- 1、国際関係を理論、歴史、文化、民族の多面的な視点・見地から批判的に分析できる。
- 2、東アジアと米国に関連したグローバルかつリージョナルな諸課題について深い理解を有する。
- 3、将来的に国際社会において指導的な役割を担うことができる基礎的な能力を有する。
- 4、リサーチクエスチョンを設定し、リサーチ・プロジェクトを企画・実施することができる。
- 5、日本語を母語としない学生は中級レベルの日本語能力を示すことができる。

Ritsumeikan University

立命館大学



学生約39,000人、17学部22研究科を擁する総合私立大学。京都・滋賀・大阪に4つのキャンパスを有する。「自由と清新」を建学の精神とし、「平和と民主主義」の教学理念に基づき、正義と倫理を持った地球市民として活躍できる人間の育成に努めている。教育のグローバル化を推進しており、年間約3,400名(2025年)の外国人留学生を受け入れ、全世界69ヶ国・地域、

471の大学と留学協定を締結している。また日本初の学部共同学位プログラム(DUDP)を整備するなど、日本の大学の国際化をリードしている。立命館大学のグローバル化に向けた取り組みへの評価と期待は高く、文部科学省による日本のグローバル化を牽引する大学を支援する事業に採択されており、2009年には「国際化拠点整備事業(グローバル30)」、2014年には「スーパーグローバル大学創生支援事業(SGU)」に採択された。

国際関係学部

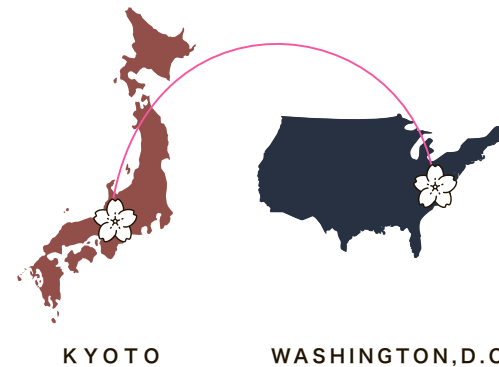
1988年に西日本初の国際系学部として京都・衣笠キャンパスに設立。1994年にはアメリカン大学と「共同学位協定」を締結し、日本初のDual Undergraduate Degree Program(DUDP)を開始。2011年には、英語のみで4年間、国際関係学を学ぶ「グローバル・スタディーズ専攻」をスタート。さらに2018年には、学部レベルでは日本初となるジョイント・ディ



グリー・プログラムを実施する「アメリカン大学・立命館大学国際連携学科」を開設するなど、日本の国際関係学のパイオニアとして常に新しい取り組みに挑戦している。英語基準のプログラムの開設を機に、世界中の国から学生が入学しており、2026年度時点で49の国と地域の学生が在籍。また、教授陣も様々なバックグラウンド(出身国・専門分野・アプローチ)を持っており、学生・教員の多様性は大きな魅力の一つとなっている。こうしたグローバルな環境で学ぶ本学部の学生は、広い視野と見識を得ると同時に、思考の柔軟性を持つことができ、学部設立後38年を経て、9,000人を超える卒業生が、企業、行政機関、国際機関、教育研究機関、NPOなどにおいてグローバルな活躍をしている。

JDP

Joint Degree Program



学部レベルでは日・米初、唯一の
ジョイント・ディグリー・プログラム

Top 16 Universities for International Relations and Diplomacy in North America (2026)

(Updated: March 15, 2026 EduRank)

1	Ohio State University	9	University of California, Berkeley
2	Columbia University	10	University of Toronto
3	Georgetown University	11	University of British Columbia
4	University of Southern California	12	Johns Hopkins University
5	Princeton University	13	Yale University
6	American University in Washington	14	Cornell University
7	George Washington University	15	Harvard University
8	University of Chicago	16	Stanford University

American University

アメリカン大学

1893年に、米国初代大統領ジョージ・ワシントンの「偉大な大学を首都に設立する」という呼びかけに応じ、国際性、実践的な理想主義、社会貢献を理念として議会によって承認された私立総合大学。国際政治の中心都市である米国首都ワシントンD.C.にキャンパスを構える。学生数は13,000人以上。オープンで多様性を重視した校風であり、キャンパスには約130の国・地域



から留学生が集う。40%以上の教員が政策決定者や外交官、企業経営者などの実務経験を持っていることも特徴。ケネディ元大統領やオバマ元大統領などの歴代大統領がアメリカン大学を訪れ、国際平和に関するスピーチを行っている。ワシントンD.C.でのインターンシップやフィールドワークの多さも特徴の1つであり、在学生の約90%が在学中にインターンシップを経験する。

School of International Service



1957年設立、約60年の歴史を持つアメリカン大学の看板学部。「国際関係学」の学部としては全米で最大規模を誇り(約3,000名が在籍)、Waging Peace(平和を遂行すること)を可能にする人間の育成に努めている。“EduRank(2026)”の“Best Universities for International Relations and Diplomacy in North America(2026)”では、

全米・カナダを含めた北米で6位にランキングされている。また、2023年の模擬国連では北米1位の成績を残した。これまでに25,000人以上の卒業生を輩出し、米国行政機関、国際機関、NPOなどでグローバルに活躍をしている。

JDPの特徴



Sakura Scholars

サクラ・スカラーズ

今から100年以上前に、日本から桜(サクラ)がワシントンD.C.に寄贈されて以来、サクラは二国間における不変の友好関係と交流のシンボルとして、ワシントンの人々に愛されてきました。この所縁に因んで、アメリカン大学がキャンパスを構えるワシントンD.C.と立命館大学(日本・京都)で学ぶJDPの学生は「サクラ・スカラーズ」と呼ばれています。

JDPでは、授業や課外活動、オンライン上の交流など、共に学ぶ仲間との交流が数多くあります。こうした機会を通じて、サクラ・スカラーズは、米国と日本のみならず、世界各国とつながりのある、ユニークな学びのコミュニティを形成していきます。

Student's Voice

高校時代に受けた英語でのディベート授業を通して「英語を学ぶ」から「英語を使って学ぶ」への意識が芽生え、たまたまインターネットで見つけた「国際関係学」という言葉に惹かれました。その時は、どんな学問かよくわからず、ましてや、世界の動きが交差するアメリカの首都ワシントンDCで2年間生活すると想像もできませんでした。大きな不安と同時に、計り知れない魅力に満ちたプログラムと感じ、「何もわからない。だからこそ、JDPに挑戦してみたい」と強く思い志願しました。国際関係学部、そしてアメリカというフィールドは、個々の興味の違いや個性がはっきりと感じられる環境です。その両方を2年ずつ体験できるJDPでの学びと暮らしは、自分の関心や挑戦を自由に広げていける貴重な時間でした。

(RU Home 第5期卒業生:小暮 百音さん)



I was initially motivated to apply to the American University-Ritsumeikan University Joint Degree Program due to my interest in Asia-Pacific diplomacy, specifically regarding the relationship among the United States, Japan, and the Philippines. I learned about the relationship among these countries at a young age, since my grandmother lived in the Philippines during the American and Japanese occupation periods. Her stories and experiences with these two countries inspired and intrigued me to learn more about colonialism, imperialism, and how these concepts operate from an international relations perspective. Additionally, as somebody born and raised in Florida, I was interested in studying in such different places from my hometown by exploring and living in these two cities across the globe. I realized that I could develop a more global perspective and experience different cultures than I was accustomed to.

(AU Home 第3期卒業生:Miles Brian Mariano-Ortillaさん)

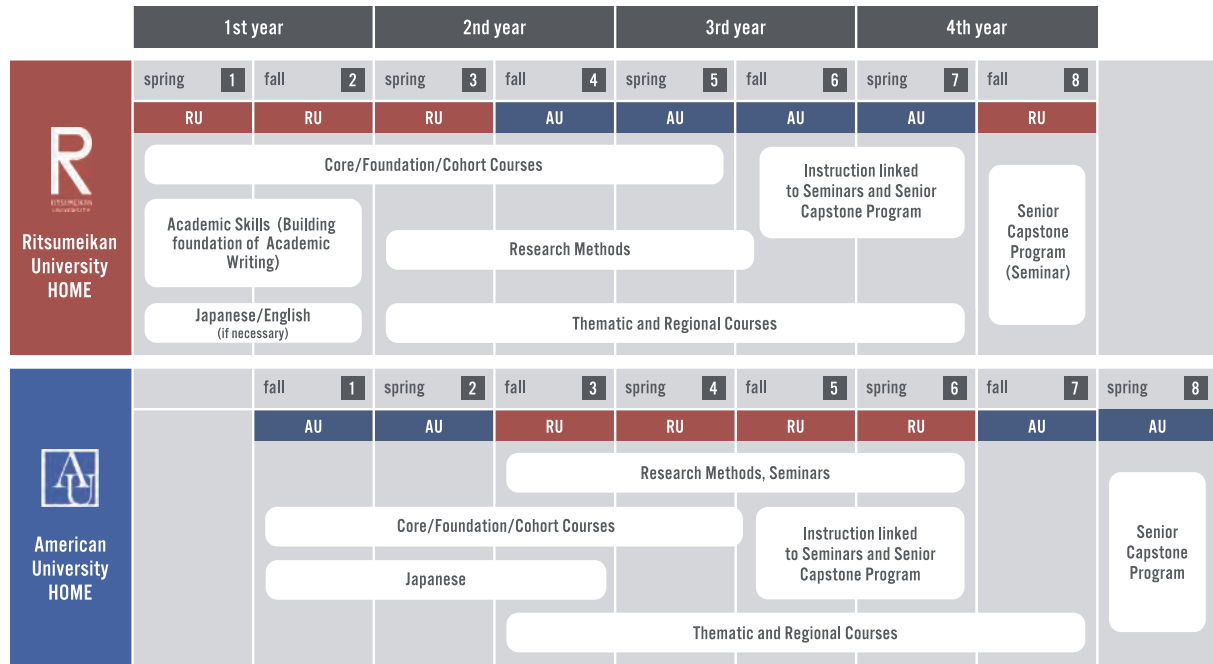


Ritsumeikan University



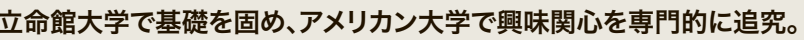
American University

ラーニングスケジュール



OPでは、**立命館大学から学修を開始する学生 (RU Home Students)** と**アメリカン大学から学修を開始する学生 (AU Home Students)** が4年間、互いのキャンパスを行き来しながら共に学びます。

立命館大学から学修を開始する「RU Home」の学生は、入学後、最初の1年半を立命館大学で学びます。授業は全て英語で実施。1学年定員100名のうち約半数が留学生である国際関係学科グローバル・スタディーズ専攻の学生や、立命館大学で学修中のJDPのAU Home studentsの2年生・3年生と共にグローバルな環境下で学びます。2年生の秋学期からはアメリカン大学へ学ぶキャンパスを移動し、4年生の秋学期までの2年間をアメリカン大学で学びます。立命館大学での学修状況がアメリカン大学のスタッフや教員へ引き継がれますので、スムーズにアメリカン大学での学修をスタートすることが可能です。また、アメリカン大学で学ぶ間も、立命館大学の指導教員やアドバイザーと連携した学修の状況や卒業研究の作成に向けた学びの進捗状況を共有する等、立命館大学とアメリカン大学の間で連携を継続していきます。4年生の5月末ごろに日本へ帰国。4年生の秋学期にもう一度立命館大学で学び、4年間の集大成である卒業研究をまとめ、卒業します。



入学後1年半、立命館大学(RU)で国際関係学のセオリーやエッセイの書き方などの基本を勉強します。そしてアメリカン大学(AU)では、RUで身に付けた基礎知識を応用し、自分の気になる分野を専門的に追究しました。AUの授業では、授業前に学生自身が大量にインプットしてくることを求められました。それをもとに、まず学生同士でディスカッションし、その内容を発表。その後先生からレクチャーを受け、またディスカッション。日本にいる時より勉強量が増えて大変でしたが、その分学習したことが確実に身につけていることが実感できました。

(RU Home 第4期卒業生:桂 和花さん)

JDP では、入学前に修得した Advanced Placement (AP)、International Baccalaureate (IB) の成績
アメリカン大学で開講する科目として単位認定を受けることが可能です。詳しくはウェブサイトでご確認下さい

- ① JDPのカリキュラムで単位認定される科目は以下の3科目です。
「WRT-100」(WRT-IB/ WRT-AP)
「ECON-100」
「ECON-200」
- ② 認定された単位は卒業に必要な両大学で修得しなければならない最低単位数には含まれませんが、単位認定を受けることで、JDPのRU Home Studentsが1～2年生時に必ず履修する基礎的な科目を履修しない選択をすることができるようになり、他の学生よりも1年生から履修できる科目の選択肢が格段に広がります。
- ③ 単位認定を受けるための成績基準・手続き方法はJDPのHPを参照してください。

これまでそれぞれの国で国際関係学を研究してきた、アメリカン大学 School of International Serviceと立命館大学国際関係学部が、西洋・非西洋それぞれの視点からこれまでの国際関係学を考え直していく。グローバル国際関係学とはこれまでに無い新しい挑戦です。



欧米中心の視点から語られがちなこれまでの「国際関係学」ですが、今は「西洋」中心だった国際秩序の転換期。このような時代に求められる、アジアの視点を取り込んだ、これまでにない国際関係学の最先端を目指します。学生時代にこうした多様な視点を身につけることは、社会に出てグローバル社会で活躍する際、様々な場面で役立つことでしょう。

(安高 啓朗 国際関係学部 教授)

多彩なバックグラウンドを持つ人と交流し、さまざまな視点から国際関係を学びたいという想いをかなえるため、JDPを選択しました。グローバル国際関係学は、人文・社会科学や自然科学のあらゆるテーマを分野横断的に学ぶ大変おもしろい学問です。またJDPでは、多様な仲間との交流を通じて、新しい価値観を知るだけでなく、自分自身について深く考えることができます。刺激にあふれた環境で学べることも気に入っています。

(RU Home 第3期卒業生:杉本 泰良さん)



カリキュラム

基礎科目(Core Courses)

アメリカン大学の特徴である国際社会のリーダーに必要な幅広い教養(リベラルアーツ)の獲得を目指す科目群。グローバル国際関係学を多面的な視点から学ぶための基礎となる科目を幅広く開講しています。多様な知識の習得を通して多様な世界観を形成し、専門分野に対する深い知見を得るための基礎を身につけるとともに、バランスのとれた知性と知恵の獲得を目指します。

リサーチ手法科目 (Research Methodology)

グローバル国際関係学の諸課題を分析するための適切な研究方法を身につけるために、方法論を学ぶ科目を1回生から3回生まで継続して配置しています。情報収集、研究計画、統計分析の手法に加え、比較事例研究分析、ゲーム理論、言説分析、民族誌的研究方法など、定性的および定量的方法論などを学びます。

地域研究科目(Regional Focus)

グローバルおよびリージョナルな諸課題に対する理解を深めるために、この科目群では東アジア・太平洋地域をはじめとする世界の全地域を網羅する地域研究科目を開講しています。

その他特徴的な科目

上記の科目群以外にもJDPではユニークな科目を「選択科目」として開講しています。また、アメリカン大学で学修している期間はJDPのカリキュラムに無いアメリカン大学内で開講されている科目を受講することも可能です※。また、アメリカン大学で学修している期間中に現地ワシントンD.C.で多様な就業体験を行う「インターンシップ科目」を履修することができますところJDPの大きな魅力の1つです。

※受講するにはアカデミック・アドバイザーとの面談の上、許可を得る必要があります。

基幹科目(Foundation Courses)

「国際経済学」分野とそれを学ぶための基礎となる「基礎経済学」分野、国際政治の基礎的な理論・歴史・現状を学ぶ「国際政治学」分野、RU Home StudentsとAU Home Studentsが共に学ぶ「コーホート」分野での学びを通して、グローバル国際関係学を学ぶための基盤を形成します。特に、「コーホート」分野の科目においては、RU Home StudentsとAU Home Studentsが共に学ぶことを通して、グローバルな視点や、多様な文化的背景が交差する環境での異文化コミュニケーション、日本文化等を学ぶことができます。

固有専門科目(Thematic Area Courses)

グローバル国際関係学を体系的かつ専門的に学ぶために、「グローバル・比較ガバナンス(国際・比較統治)」、「アイデンティティ・民族・ジェンダー・文化」、「平和・国際安全保障・紛争解決」の3つの固有専門科目群(Thematic Areas)を設定しています。

ゼミ・卒業研究(Capstone Project)

4年間の学修の成果の集大成となる、「キャップストーン科目(ゼミ・卒業研究)」を3回生以降に配置しています。1回生から継続的に学ぶりサーチ手法科目と連動しており、グローバル国際関係学における適切な調査法を用いながら研究を進め、それぞれの学生の4年間の学びを反映した成果物(卒業研究)を最終学期に作成します。

固有専門科目(Thematic Areas)

学生は専門科目の履修を開始する前に、3つの分野の導入的な科目を配置した「専門入門科目(Gateway Courses)」を1〜2回生時に履修した後に、3つの分野の中から主分野と副分野を選択して専門的な学びを深めていきます。

グローバル・比較ガバナンス (国際・比較統治)

グローバル社会には、国家、国際連合や世界銀行などの国際機関、EUなどの地域連合体、市民社会、民間セクターなど幅広いアクター(主体)が存在します。この分野では、これらのアクターが地域的・国際的な問題の解決に果たす役割について学びます。具体的には、現代が抱える安全保障、開発、環境、経済に関する喫緊の課題に対して、各アクターがどのように考え、対応するのか検証します。また、特定の地域について専門的に学ぶこともできます。こうした分野を幅広い専門的な手法を用いながら学び、今後のグローバル社会の動向を予測する能力を身に付けていきます。

科目例

Gateway Courses

RUIR-1411
Introduction to the United Nations
RUIR-2412
Comparative and Global Governance

Thematic Area Courses

RUIR-2511
International Human Rights
SISU-393
International Relations Theory
SISU-329
Global Economic Governance

アイデンティティ・民族・ ジェンダー・文化

アイデンティティは、人間の生活と社会の根底をなします。特に、人種、性別、階級、宗教、性的指向、国籍は多くの人にアイデンティティを形作る重要な要素ですが、多くの人は複数のアイデンティティを持っています。これらのアイデンティティは常に変化し、様々な文化的および社会的影響を受けています。この分野では、変容する世界におけるアイデンティティについて学びます。理論的かつ実証的なアプローチで、アイデンティティの歴史や重なり合いについて学びます。

科目例

Gateway Courses

RUIR-1421
Introduction to Gender Studies
RUIR-2422
Race and Ethnicity in the Modern World

Thematic Area Courses

RUIR-3521
Media and Society
SISU-360
Topics in Identity, Race, Gender, and Culture
SISU-369
Topics in Public Diplomacy

平和・国際安全保障・ 紛争解決

平和と安全保障に関する様々な理解や、戦争の原因、結果について学びます。国際安全保障、戦略研究、人間の安全保障、平和学、紛争解決についての理論と歴史的事例の学びを通して、戦争や平和への課題を学びます。本分野ではまず、平和や紛争解決にかかわる様々な哲学的伝統を学び、紛争のさまざまな定義や暴力の一般的なパターンを学び、この基礎の上に、政治的暴力、さまざまな平和構築および紛争解決メカニズムについて検討します。

科目例

Gateway Courses

RUIR-1431
Introduction to Peace Studies
RUIR-2432
Security Studies

Thematic Area Courses

RUIR-2548
Global Simulation Gaming (PGSCR)
SISU-312
Governance, Development, and Security in Asia
SISU-359
Environment, Conflict, and Peace

学修支援



アカデミック・アドバイジング

日米両大学での4年間で計画的に学び、卒業していくために、各学生に1人、担当のアカデミック・アドバイザーを配置し、各学期に1対1でのアドバイジング（面談）を実施します。アドバイザーは、受講科目の選択や受講登録のサポート、英語能力向上などの学修面のアドバイスなど、学生個々の履修状況全般についてアドバイスを実施するとともに、健康管理やキャリア支援、インターンシップや学費・奨学金といった案件についてもサポートします。両大学のアドバイザーは各学生の履修状況の情報共有を密に行いますので、学生が学ぶキャンパスをアメリカに移した後も、立命館大学で実施してきたアドバイジング内容を引き継いだアメリカン大学のアドバイザーがサポートを継続します。

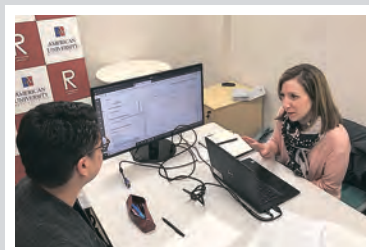


授業や英語学習のサポートが充実しています

海外移住経験がない私にとって、第二言語としての英語学習に理解がある先生やアドバイザーが多いことがとてもありがたいです。オフィスアワーやメールを通して、英語力向上のための具体的なアドバイスをいただいています。授業などの学業面のサポートはもちろん、日常生活のサポートも非常に充実していると感じます。日本とアメリカの大学の全く異なった学習スタイルや価値観を学べることも大きな魅力です。JDP生のみで実施される授業では、日本とアメリカそれぞれの社会について、AUホーム学生と意見交換する時間が多くあります。サクラ・スカラーとして得たこれらの経験により、客観的な視点を身につけ、両国の架け橋のような存在になりたいと思っています。

(RU Home 第4期卒業生: 安藤 仁さん)

英語能力向上の取り組み



アメリカン大学で学修を開始するためには、立命館大学での1回生の学修を終えるまでに、一定の英語スコア基準をクリアする必要があります。JDPでは、大学における英語での学修・研究の方法を学ぶ「Academic Skills」や「Introductory Seminar」の受講を通じて、1回生のうちに全員が英語での読解、聴解、アカデミック・ライティング、プレゼンテーションや、文献活用方法等について学びます。英語のスコアアップが必要な学生には「Intensive English」の受講を通じて、TOEFL iBT®やIELTSといった英語試験への挑戦を丁寧にサポートしていきます。授業外では、レポートの添削を通じてライティングスキルの向上を支援するライティングサポートを、大学院生が担当チューターから受けることができる等、2回生の秋学期から始まるアメリカン大学での学修へ向けて授業内外で英語でのアカデミック・スキル向上を支援します。

キャリア・サポート

日本での就職活動や、海外も含めた大学院進学など、卒業後のキャリア支援についても、2年間でアメリカで過ごすJDP生に特化したサポートを行います。アメリカへの渡航前(2回生春学期)にキャリア・ガイダンスを実施し、早期に準備をスタートするほか、国際的に活躍する卒業生(大学院進学者含む)やグローバル社会で活躍するゲストとの懇談会等を通じて、渡航前からキャリアに関する意識を高めていきます。アメリカン大学での学修中も、立命館大学の学生向けに実施する各種キャリア・サポートをスカイプ等オンラインで受けることができ、帰国後のスムーズな就職活動・大学院受験等をサポートします。もちろん、アメリカン大学のキャリアセンターでの情報収集やキャリア系のイベントへの参加、インターンシップ参加に向けて相談すること、アメリカで行われる日本企業の就職フェア等への参加も可能です。JDP特有の日米両大学での特別な経験を、学生一人ひとりの長期的なキャリア形成や国際社会での活躍に活かすことができるよう、両大学がサポートします。

※アメリカにおけるOPTビザを取得した就業はできません。



アメリカン大学大学院へ進学し、国際関係の学びを追求

グローバルセキュリティ分野を中心に国際関係学の研究を続けるため、大学院進学を選びました。また、ワシントンD.C.のキャンパスに戻れば働きながら勉強できるので、卒業後に自分自身の力を最大限に発揮できると 생각합니다。JDPは、国際関係学分野において第一線の教授陣から学び、多様な視点を吸収することができる特別なプログラム。私は4年間を通じて様々な講義を受け、人権や越境犯罪に興味を抱くようになりました。JDPは私たちに情熱とひらめきをもたらし、グローバルリーダーへと成長させてくれます。世界を共にリードしていきましょう。

(RU Home 第1期卒業生: KIM Brencisさん)

授業外の多様なプログラム

JDPでは、正課の授業だけでなく、授業外でも特別なプログラムが開催されます。これまで、アメリカン大学の教授による特別授業、ワシントンD.C.を拠点に活動する著名起業家のセミナーなどを実施。2020年には、アメリカ大統領選挙後の国際社会について議論する意見交換会をアメリカン大学と共同開催し、両大学のJDP学生が参加しました。また、JDPの学生は立命館大学とアメリカン大学の両方でインターンシップに参加することができます。インターンシップに参加後、一定の条件を満たすと単位が与えられます。

インターンシップを体験して多くを学びました

アメリカン大学在学中、日本の新聞社のワシントンD.C.支局でインターンとして働きました。翻訳の仕事が中心で、インタビューのレコーディングを日本語に翻訳したり、ニュース記事を翻訳して資料作成したりしました。また、私の知り合いで、政治活動に携わっている人がいると知った上司から、インタビューを手配するようお願いされました。英語でコーディネートをする経験は初めてでしたし、実際のインタビューでも通訳支援をさせてもらい、とても勉強になりました。

(RU Home 第4期卒業生: 稲田 実々さん)



学費・寮費

立命館大学で学修を開始する学生(RU Home Students)は、立命館大学で学ぶ期間は立命館大学に、アメリカン大学で学ぶ期間はアメリカン大学に、各大学の学費等を支払います。アメリカの私立総合大学の学費は日本の私立大学に比べると高額ですが、JDPではアメリカン大学で学修する2年間のみアメリカン大学の学費額となりますので、直接アメリカの私立総合大学に進学し4年間学ぶよりも学費を抑えることができます。また、後述するJDP特有の奨学金や授業料減免制度を活用することで更に学費負担を軽減することが可能です。

2026年度学費 (参考)

1回生			2回生		3回生		4回生	
入学金	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋
¥200,000	¥719,600	¥719,600	¥719,600	\$31,340	\$31,340	\$31,340	\$31,340	¥719,600
立命館大学				アメリカン大学			立命館大学	

※立命館大学の学費は2027年度以降変動する可能性があります。2027年度以降の学費は決定次第、立命館大学の「入試情報サイト」に掲載されますのでご確認ください。

※アメリカン大学の学費は1学期(セメスター)に「12〜17.5単位」を履修する際の学費額です。18単位以上履修する場合は追加の学費が発生します。

※アメリカン大学の学費は2026年5月時点の情報を掲載しています。アメリカン大学の学費・寮費等は毎年変動しますので最新情報はアメリカン大学HPをご確認ください。

奨学金

入学後、立命館大学で学修を開始する学生(RU Home Students)のうち、条件を満たす学生は、アメリカン大学で学修する期間の学びを支援することを目的とした奨学金を利用できます。いずれも返済義務のない給付型の奨学金です。

※下記はいずれも2026年4月入学者を対象とした内容です。2027年度以降の入学者については、適用される立命館大学の奨学金制度が変更となる可能性があります。

立命館大学海外留学チャレンジ奨学金

支給額および支給期間
年間100万円×アメリカン大学で学修する2年間

受給条件
①入学後、第2学期終了時までの累積GPAが、立命館大学の基準で3.0以上、且つ、第2学期終了時まで卒業要件単位32以上を修得していること。

②アメリカン大学の定める英語スコア【TOEFL® iBT85点相当以上】に到達していること。

アメリカン大学での授業料減免制度

アメリカン大学で学修する最初の1年間(2学期間)、授業料(学費)の30%相当が減免されます。その後も、一定の成績条件を満たせば(※)、授業料減免を継続して受けることが出来ます。

(※)アメリカン大学で学修を開始した後、2学期目終了時までの累積GPAが、アメリカン大学の基準で3.0以上であり、3学期目以降もGPAをアメリカン大学の基準で3.0以上に維持することが必要です。

奨学金を含めた学費・寮費の概算比較(参考)

アメリカン大学へ直接進学した場合	JDP
AU学費(4年間) 約3,760万円 各種奨学金を受給する場合はこの限りではありません	RU学費(2年間):約300万円 AU学費(2年間):約1,880万円 奨学金 立命館大学海外留学チャレンジ奨学金:約200万円 アメリカン大学授業料減免:約560万円
寮費(4年間):約780万円	RUでの家賃※(2年間):約195万円 AUでの寮費(2年間):約395万円
学費・寮費 合計 約4,540万円	学費・寮費 合計 約2,005万円

※京都衣笠キャンパス周辺で1人暮らし(家賃月額 約7万円)を想定して試算/アメリカでかかる費用は1ドル150円で試算/寮費や家賃は選択する部屋によって価格は変動します/奨学金・授業料減免を受給するには上に記載の通り、受給条件を満たす必要があります。

財政証明書の提出について
Certification of Finances
for International Students:CFIS

RU Home Studentsは、アメリカ入国における査証(ビザ)取得のために、アメリカン大学での履修前に財政証明書(Certification of Finances for International Students:CFIS)を提出します。そのために、アメリカでの授業料・生活費・その他諸経費を含む1学年の経費を負担できる残高証明書を準備する必要があります。

アドミッション・ポリシー

アメリカン大学・立命館大学ジョイント・ディグリー・プログラムは、キャンパスの内外で効果的なリーダーシップを発揮できるグローバルなマインドと国際社会の諸問題を分析するために必要な基礎学力を有する学生を求めています。卒業後、友好的で相互に有益な東アジアおよび日本と米国の関係発展ならびに国際社会の平和と繁栄に貢献する意欲を持った学生を受け入れます。

両大学が合同で選考を実施

JDPは入学者選抜も立命館大学とアメリカン大学が合同で行いますので、アメリカの大学を受験する際に準じた準備が必要となります。

選考方法

1次選考は書類選考、2次選考は面接(英語)を行います。
※入試方式によっては書類選考のみの入試方式もあります

成績について

アメリカの大学では高校3年間の成績が非常に重要視され、JDPでも同様に重要視しています。アメリカン大学HPにはアメリカン大学全体の合格者GPAが参考情報として掲載されています。

定員

1学年25名
(RU Home Students、AU Home Studentsの合計)

主な選考のポイント

- ・高校3年間の成績
- ・エッセイ(英文で作成)
- ・英語能力試験のスコア
- ・推薦書(英文で作成)

過年度の入試の講評についてはJDPのHPからご確認ください。
選考のポイントや解説が掲載されています。

英語能力試験のスコアについて

入試出願要件

- TOEFL iBT®テスト4.0以上(2026年1月21日以降に受験した試験)
- TOEFL iBT®テスト76点以上(2026年1月20日以前に受験した試験)
- IELTS(Academic Module)Overall Band Score 6.0以上
- PTEアカデミック51以上
- SAT section EBRW 580点以上
- ACT English Test 25点以上
- Duolingo English Test 115点以上
- Cambridge Assessment English スコア162以上

※ 入学試験の出願時点で求められる英語能力のスコアは入試方式によって異なりますので、受験する入試方式の入試要項をご確認ください。

※ 上記スコアは毎年見直しがかかるため、入学するタイミングによって変更の可能性あります。

入学後

アメリカン大学での学修に必要な英語スコア

RU Home Studentsがアメリカン大学での科目を履修するためには、入学後、第2学期終了時まで以下のいずれかのスコアに到達している必要があります。

- TOEFL iBT®テスト 4.5以上(2026年1月21日以降に受験した試験)
- TOEFL iBT®テスト 85点以上(2026年1月20日以前に受験した試験)
- IELTS(Academic Module)Overall Band Score 6.5以上
- PTEアカデミック60以上
- SAT section EBRW 610点以上
- ACT English Test 25点以上
- Duolingo English Test 120点以上
- Cambridge Assessment English スコア176以上

入試要項

入試要項(RU Home Students用)はHPから確認してください。アメリカン大学で学修を開始する学生(AU Home Students)の入試はアメリカン大学が事務手続きを主管しますので、アメリカン大学のHPを確認してください。

立命館大学
www.ritsumei.ac.jp/ir/jdp
アメリカン大学
www.american.edu/sis/undergrad/sakura/